



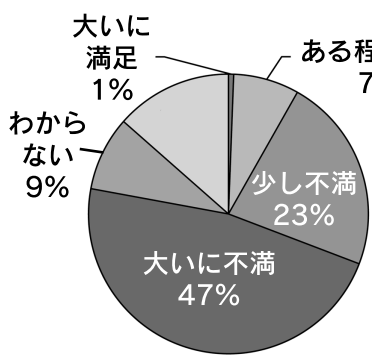
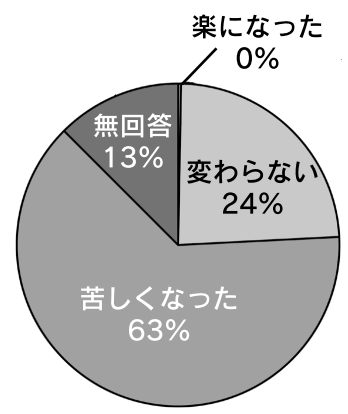
市民アンケート ご協力ありがとうございました

昨年9月に日本共産党あきる野市議団からみなさんをお願いしていた市民アンケートに、たくさんの声が寄せられました。ご協力ありがとうございました。結果をまとめましたので、その一部をご報告します。

苦しい市民生活 くっきり

ここ数年であなたの暮らしはどう変わりましたかの質問に、楽になったと答えたのはわずか0.3%。63.3%の人が、苦しくなると答えました。

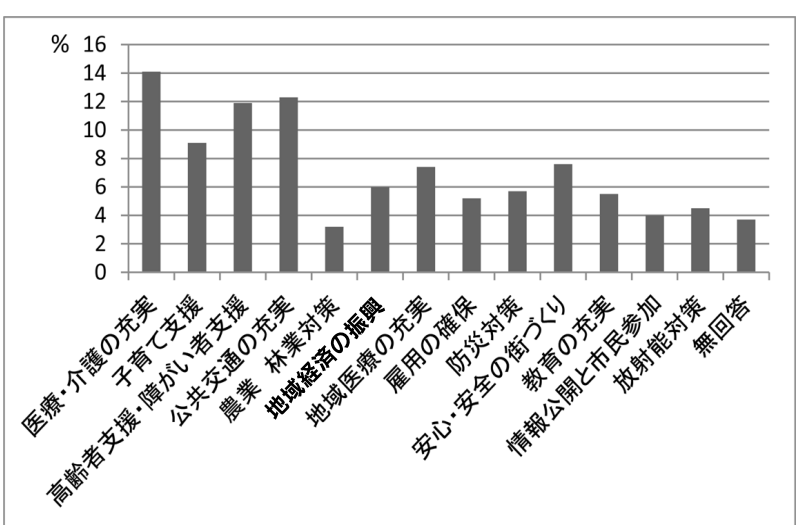
その理由(複数回答可)としては、多い順に国保税や介護保険料の負担増、年金の減少、税金の負担増、医療費の支出増、給料の減少などがあげられました。「息子が高校入学なのに、夫の手取りが12万円減った」「一か月分の年金の1割近くが国保・介護保険料。食べていけない。」など、困窮・不安の訴えが目立ちます。



くらし守る対策充実を望む声大きく

あきる野市政についての評価は、大いに満足、ある程度満足とした人8.2%に対し、少し不満、大いに不満とした人が69.7%。市政の改善を望む声が圧倒的です。

優先的に取り組んでほしい内容としては、医療・介護の充実が14.1%、公共交通の充実が12.3%、高齢者支援・障がい者支援が11.9%、その後子育て支援・防災対策、地域医療の充実と続きます。高齢化が進んでいるためだけでなく、あらゆる市民にかかわる問題として、医療や公共交通の充実が求められています。

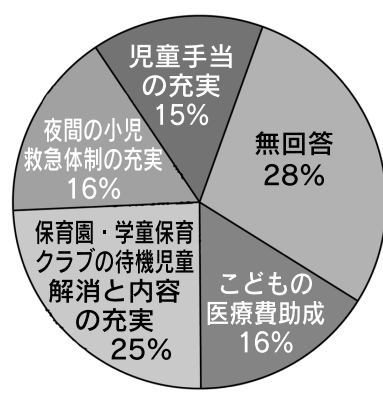
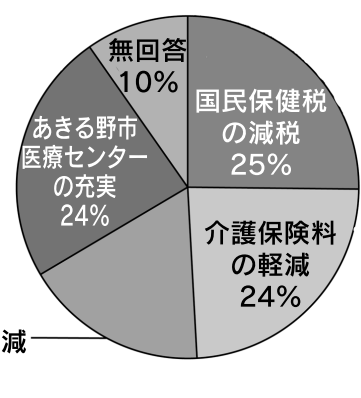


他自治体と同じはずなのに「市民税が高い」という声が多いことにも、不満の表れが感じられます。

求められている医療の充実・負担軽減

医療・介護・高齢者支援について望む内容(複数回答可)は、国民健康保険税の軽減、介護保険料の軽減など負担の軽減を望む声と、医療の充実を望む声が多く見られました。

「夫は介護保険料を払い続けて、使うことなく他界。制度に腹が立つ」「身近な個人病院が減った」「救急医療を充実してほしい」「退職後、医療費の負担が増えて大変」など切実。「せめて申請窓口の対応をやさしくして」との声も。



保育園・学童クラブ・小児医療の充実を！

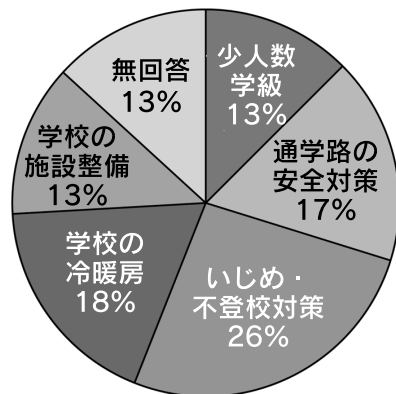
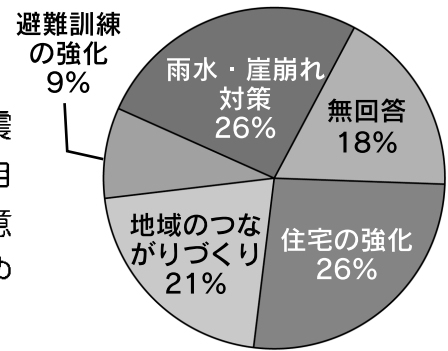
子育て支援については、保育園・学童クラブの待機児解消と内容の充実を望む声が目立ちました。寄せられた声の中でも「働きたいのに保育園に入れない、入れないから働けない」との訴えは、待たなしの現状が伝わります。他にも「学童クラブの状況はみじめ。人が足りない」「子どもの医療費助成を高校生までに」「夜間小児救急を作って！」「一時保育の充実」「こどもを預かる側の職員も守って」「誰でも使える児童館を」など。

一方で、無回答の人も約30%と多く、若い人たちへのはたらきかけの不足も痛感しました。

地震への備え 意識高く

防災対策では、住宅の耐震化、雨水・がけ崩れ対策・地域のつながり作りの順。「耐震化をしたいが補助金・補助件数が少ない」「足が悪く、避難は無理。住宅の耐震をしたい」「自治会加入の働きかけを」「一人暮らしの安否確認」など、東日本大震災をきっかけに防災意識が高まっており、具体的な提案が目立ちます。市民の意識の高いいまこそ、補助を増やして住宅耐震化を進めるべきではないでしょうか。

「防災無線が聞こえない」という人がいる一方で、「防災無線がうるさい」という訴えもありました。



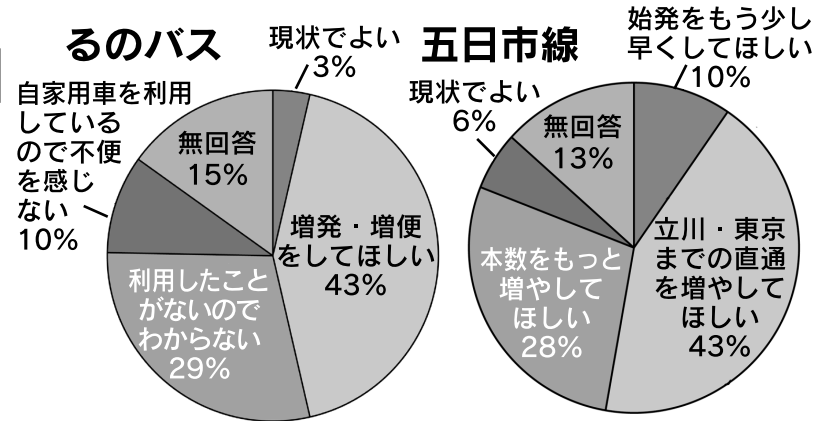
いじめ・不登校問題に注目

教育については、ちょうどマスコミが取り上げていたこともあり、いじめ・不登校への対策がトップ。「いじめは隠さないで」「先生が多忙すぎる？」など、子どもたちを心配する声が多く。つづく学校の冷暖房、通学路の安全対策には、「猛暑の日子どもたちが心配」「いまだきクーラーのない施設はない」「冷房は使いすぎないように」「通学路が暗い・狭い」「交通擁護員がいてくれてありがたい」、他にも「いじめ対策のためにも少人数学級の実現を望む」などの声が寄せられています。

るのバス増発増便は市民の願い

公共交通では、「もっと使いやすく」「見たことがない」「使いたいが不便で使えない」など、るのバスの増発増便を求める声が圧倒的です。運行開始から10年経つのに利用したことがないという人の多いことにも、使いにくさが表れています。

五日市線については、立川・東京直通電車を望む人が非常に多く、ホームタウンとしての役割が求められています。

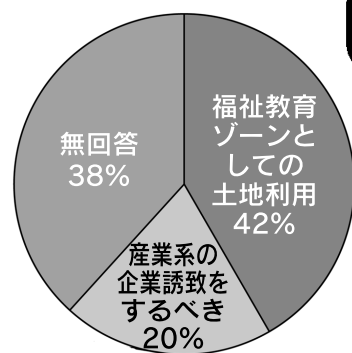


障がいがあっても「あたりまえの暮らし」

障がい者支援については、「働く場をもっと！」「障がい者の意見を聞いて」「障がい児の放課後の居場所作り」「預かる側の待遇の改善」「障がい重いほど負担が増えるシステムに市の対策を」「音の出る信号機の設置」「障がい者を抱える家族に支援を」など、障がいがあってもなくてもだれもが望む、あたりまえの暮らしもままならない現状がうかがえる、切実な書き込みがたくさんありました。

秋川高校跡地利用は市民の考えを聞いて

秋川高校跡地利用については、福祉・教育ゾーンにという人が非常に多く、記述でも「公園に」「避難施設を」「大学を作って」「介護施設を」など、自由な発想でさまざまな意見がありました。企業誘致をという人でも、「10年間法人税ただにすると！ろくな企業は来ない」「市税が入るなら企業もやむなし」「10年後はどうなるかわからない」「福祉産業の誘致がいい」など、法人税10年間無料・水道料金値引きという市の誘致方法には疑問を感じる人が圧倒的。いまこそ、市には市民の意見を聞く姿勢をもつべきでしょう。



国や都、市議団に対する意見は…

国や東京都への意見・要望は、「政治が信用できない」「増税反対」「年金が不安」「オリンピックどころではない」「原発ゼロを！」「公営住宅を増やして」「消費税増税では暮らしていけない」など、怒りと願いのこもった切実な意見が。

市議団への意見・要望では、「生活に密着した課題に取り組んでいる」「エアコン実現にびっくりした」「活躍を期待する」「小さな声を市に届けてくれる」「新しい住人の声も聞いて」「放射能問題を聞いてくれたのは共産党だけ」など、さまざまです。みなさんの声を励みに、これからも、だれもが安心して暮らせるまちづくりに努力します。

法律相談

2月28日(木) 13時30分～15時 予約が必要です。市議団までご連絡ください。